

初めての「岐阜」

新年明けて、そろそろ正気に戻って来た1月20日木曜日、生まれて初めて岐阜市を訪れました。名古屋駅を夕刻出発、JR東海道本線大垣行新快速で20分ほどで岐阜駅に到着、新宿から「あずさ」に乗っていく甲府のイメージでしたので近さに驚きました。訊いたところ、名古屋の会社に勤務の方は岐阜のマンションを購入される方も多く通勤圏なのだから。県民の皆様、大変失礼致しました。コロナ禍で、あちこち観光がてら行くことは叶わず用事があるのは翌日1件、ご案内頂く昭和コンクリート工業さん（「フォームサポート分科会」メンバー）にせがんで早速夕飯へ。駅の商店街を歩いていくと『馬喰一代』と書いてあるお店の暖簾をくぐり、馬??、そんなことはなく飛騨牛の店で霜降の皿に札が添えてあり肉名を明記して出す高級店。雰囲気ありすぎの上美味しすぎてどれか確認もせずべろりと食べました。仙台に縁のある私ですがこんなに美味しいタンも食べたことがない、いきなり至福の時を赤ワインとともに迎えた岐阜の初夜でした。

さて今回の目的は、昨年末エルリでインフラの老朽化対策工法を社会インフラテック展に出展した際、模型が無く少々寂しいブースとなった反省から模型屋さんを紹介頂くことでした。翌日1月21日の朝、岐阜駅そばから車に乗せて頂き30分ほどでしょうか、川のほとりの会社に到着しました。土木業界にはいない爽やかな雰囲気でお迎え頂きましたのは『和模型工房』小山社長、柔らかな口調から説明頂いたのは…ガンプラ世代には堪りません、ジオラマ初めホワイトベースの機内にありそうな工業用マシンは外見のみならず、動く動く。“身体で覚える”がパワハラな今、企業では和模型さんに工場内の装置を再現してもらいミニチュアで作業を覚えるのだそうです。伊勢志摩サミットの国賓のお土産は人工衛星、もちろん和模型さん製作、精巧なものを同じように何台も作れるのはすごい、ちなみに環境省から受けた仕事だそうです。鉄道展のJR・・・切りがなくなりそうですのでこのくらいで。腕前にすっかり惚れ込みフォームサポート工法の資料を手渡し見積をお願い致しました。来年度の展示会には間に合うと思いますので出来栄をご期待ください。その日もすっかり昭和コンクリート工業さんにお世話になり岐阜駅まで送って頂きがてら最後に、岐阜の有名なお菓子屋さん『養老軒』が期間限定で岐阜駅に出店していることを教わりました。早速、すごっ、苺だけではなくバナナ・他にも何か1つの大福に入ってる。しかし、残念ながらほとんどが生ものため賞味期限が短くて帰社後同僚が不在であれば月曜日までもたないな、待てよ、職人さんが毎朝小豆の声を聴きながら作っている餡を使用した『ごろごろ栗のどら焼き』これは月曜まで大丈夫のよう。購入して東京へ。事務所で食べました、うまい！栗と餡子がこんなに相性いいなんて。さすが栗きんとんの岐阜です。ありがとう、岐阜！そして昭和コンクリートさん（本社 岐阜県）には2日間もお付き合いいただき感謝、感謝。

それからほどなくして、オミクロン株が幅を利かせたどこにも行けない日々で読書でもと[新版]日本国紀 百田尚樹著を読み始めると織田信長が天下統一を目指すようになった頃を推測するくだけで岐阜が出てきてビックリ。信長は尾張と美濃の一带をほぼ支配下に置いた頃（1565年）城下町「井ノ口」の地名を「岐阜」に改めたそうです。岐阜は「周の文王が岐山より起こり、天下を定む」という故事にちなんで命名したそう（阜は山と似た意味）。それが信長の野望

を示すとのこと、うらやましくなる県名の誕生秘話、そういえば駅前に信長の像があったことを思い出しました。ご存じの通り信長は本能寺の変で明智光秀に49歳で討たれてしまいます。ただ英雄が若くして旅立つ夢幻もいいですが、450年もの間、街を守りインフラを維持し造り替え、長寿命化を図り現在も同じ名前で県名になっていることは人間が作り出す現実の業としてロマンを感じませんか。私はエルリの活動を通じてインフラの長寿命化にチャレンジしていることに妙にワクワクしてしまいました。関係ないですが私、たまたまこの2月で50歳になります。長生きだけは信長に勝ったようで・・・。

“人間五十年、下天のちを比ぶれば、夢幻の如くなり”

(理事 田中富智夫)